

農地・水保全管理支払交付金 共同・向上・復旧活動支援交付金 平成25年度の取組状況

共同活動支援交付金

平成25年度「共同活動支援交付金」については、25市町、318活動組織で取り組まれています。平成24年度で14組織が自主的な活動に移行しました。



【水路の草刈】



【砂利の補充】

【共同活動支援交付金】

共同活動の取組状況

市町数	活動組織数	取組面積 (ha)			
		計	田	畑	草地
25	318	26,052	22,906	3,105	41

向上活動支援交付金

平成23年度から導入された「向上活動支援交付金」については、平成25年度は21市町、139活動組織で取り組まれています。また今年度より、那須塩原市6組織で高度な農地・水に取り組まれています。平成25年度より8市町新規17組織で活動が始まりました。



【水路の嵩上げ】

【向上活動支援交付金】

向上活動の取組状況（施設の長寿命化のための活動）

市町数	活動組織数	取組面積 (ha)			
		計	田	畑	草地
21	136	9,904	8,808	1,057	39



【水路の更新】

向上活動の取組状況（高度な農地・水の保全活動）

市町数	活動組織数	取組面積 (ha)			
		計	田	畑	草地
1	6	475	427	48	0

復旧活動支援交付金

東日本大震災で被災した農地・農業用施設について、速やかな農業生産基盤の復旧を図り、農業振興に向けた基礎作りを図っていくための活動を支援する「復旧活動支援交付金」については、6市町、35活動組織で取り組まれています。

【復旧活動支援交付金】

復旧活動の取組状況

市町数	活動組織数	取組面積 (ha)			
		計	田	畑	草地
6	35	4,287	3,552	735	0



【水路の補修】

「田んぼまわりの生きもの調査インストラクター養成講座」を開催しました!

地域主体による充実した生きもの調査等の取組を促進するため、平成22年度から「田んぼまわりの生きもの調査インストラクター養成講座」（計2回の連続講座、20活動組織、参加者35名）を開催しています。平成23年度からは、環境点検や同定・解説への挑戦、発表を行うなど、ワークショップの要素を取り入れた、自らが動く“受講者参加型”の講座としています。

本講座の狙いは、生きものの同定力の向上、同定精度の向上をはじめ、参加者自らが動いて講座フィールドの環境点検を行うこと、地域を広域的に見る力を身につけ、更には“地域を牽引する人材”の育成につなげていくことです。

第1回（8月6日）は、雨天により陸生昆虫と陸生植物を実際に採取することはできませんでしたが、福田信博氏（昆虫類）と小峯洋一氏（植物）の協力により室内での同定・解説を受け講座を終了しました。



第1回の座学の様子
小峰氏の植物の説明



この植物は・・・



第2回の座学の様子
大貫氏の水生生物の説明



真剣です

第2回（10月11日）は、水生生物を中心に、実際に水路等に入って環境点検や生きもの調査を行い、生きもの同定や解説を受講者全員が実践しました。また“田んぼまわりの生きもの調査インストラクターの心構え”について学びました。受講者の皆さんは、最初、少々戸惑があったようですが、自ら動くことで、両講座とも楽しみながら学んでいたようです。受講者の方々の今後のご活躍を期待しております。



とれたとれた!



同定に挑戦!
これは・・・めだかです



第2回座学の様子



参加者全員で

県庁本館で農地・水の活動を紹介しました。

12月6日（金）～12月13日（金）の8日間、県庁本館15階の展示ギャラリーにて、共同活動に係るパネル展示を行いました。

会場には、平成24年度の「田んぼまわりの生きもの調査結果」と地域の保全活動の紹介を盛り込んだ、パネル展示をしました。これからも、保全活動への積極的な参画をお願いします。



県協議会からのお願い 農地・水保全管理支払交付金の財産処分等について

財産は1件の取得単価が50万以上の機械及び器具としていますが、その他1万円以上のものは、活動組織の財産として適切に管理するため、台帳に整理をお願いします。

50万円未満の財産の取扱いについては、制度上の手続きはありませんが、国からの交付金の終了後も地域の共同活動に利用される様に、活動組織で話し合い、構成員の役割分担のもと、中心となる団体に引き継いで使用するようお願いいたします。（財産物と合わせて台帳も引継ぎましょう）

共同活動を通じて、県内各地域で様々な取組が展開されています。そこで、活動組織間の情報共有と組織運営の充実に役立てていただくため、地域の取組成果やこれまでの苦労話や、今後の抱負などを「活動組織からの声」と題して紹介します。今回は、日光市の「大室農地水管理委員会」です。

対象となる農村資源

協定農用地		対象農用地	
田	15,457 a	田	9,521 a
畑	2,286 a	畑	967 a
草地	- a	草地	- a
計	17,743 a	計	10,488 a
農業用施設			
開水路	15.0km	パイプライン	1.0km
農道	5.0km		



当会は、平成24年4月に、共同活動を通じ、大室に存する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図ることを目的とし、発足しました。向上活動、共同活動を地域の人たちと行っています。

今までに行った事業は、地域の子供達と父兄にも参加してもらった田んぼまわりの生きもの調査です。子供達より大人のほうが夢中になっていた気がします。ずっと続けて調査したいと、地域で盛り上がっています。



今年度は、圃場整備でできた法面への芝張り、イワダシ草の移植を行いました。来年は素晴らしい景観になると、地元でも大変楽しみにしています。排水路・畦畔等の草刈も多くの方が参加しておこなっています。

向上活動では、土水路からU字溝への改修工事も計画的に行っています。宇都宮大学の学生さん達も、卒業論文の題材にしたいと組織を訪れ、協力いただきました。

今後は、地域が「輪・和・話」で仲良くなる営農活動をおこなっていきたいと思います。



新シリーズ

~同定力向上へのワンポイント~

ドジョウ



ホトケドジョウ



ドジョウの特徴

- 田んぼや水路、池などの浅い泥底に住んでいる。
- 体長12cm 長細い魚で水のある水路や池などに移動していきます。
- ヒゲの数は5対で10本あります。
- 水田での産卵が多い。

ホトケドジョウの特徴

- 湧き水のある水のきれいな水路や流れのゆるやかな砂底または砂と泥の底に住んでいる。
- 体長6cm 「ハバスコ」、「ドンベ」などと呼ばれます。
- ドジョウに比べてずんぐりとした体でヒゲは4対で8本です。
- オス、メスの判別は困難です。

ポイント

ヒゲの数は5対で10本ある

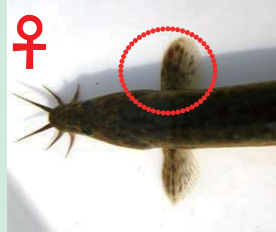


ドジョウには尾びれの付け根に黒い斑紋がある。

オスは大きくて尖るイメージ



メスはコンパクトで丸みがあるイメージ



ポイント1

- 湧水性で低温（安定水温）、流速の小さな場所を好む。
- 泳ぎが意外と得意。
- ドジョウと比べると浮き袋が発達しており、中層を泳ぐことが可能。
- 雑食性のため、手を水槽に入れると突っついてくる。（手に付いたゴミを餌とおもっている）
- 自然の土水路が好き。
- 湧水性のため池や水田にも遡上する。

ポイント2

ドジョウ類について
ドジョウ類については、ヒゲの数がポイントとなります。しかし、それだけではなく顔の形状なども参考にするとよいでしょう。

ドジョウ：丸い	シマドジョウ：さんかく	ホトケドジョウ：平べったい
ヒゲは5対 (10本)	ヒゲは3対 (6本)	ヒゲは4対 (8本)

出典：「田んぼまわりの生きもの」メダカ里親の会

向上活動技術研修会を開催

平成25年8月29日、活動組織の執務担当者、施工責任者等を対象に「農地・水保全管理支払交付金に係る向上活動技術研修会」を開催しました。研修会には、195活動組織および国県市町担当者、511名が参加し、皆一様に説明を熱心に聞き入っていました。

今回の研修会は、農地・水保全管理支払交付金の向上活動等に係る情報の提供と水路補修等の技術力向上のため、関東農政局土地改良技術事務所、ショーボンド建設株式会社及び県協議会の担当者から、説明を行いました。

【農地・水保全管理支払交付金に係る施工等における留意点】

関東農政局 土地改良技術事務所 保全技術課専門技術指導官 大畑 亮二

【コンクリート水路の簡易補修について】

ショーボンド建設株式会社 開発本部兼技術本部技術部 山崎 大輔

【自主施工・外部発注の手順・書類作成における留意点等について】

栃木県農地・水・環境保全向上対策推進協議会 山口 佳子男



【関東農政局 大畑氏】



【ショーボンド建設（株）山崎氏】



補修説明の様子



実技の様子



実技の様子

活動組織のあり方と補助金適正化法に基づき遵守すべき点について再認識しました。共同活動による点検・機能診断を元に維持管理補修計画を立て実践するまでの流れや、自主施工時の管理・外部発注時の現場確認および検査の実施、水路更新と生態系に配慮した施設の紹介、事務処理上の留意事項などを学習しました。

また、施工上の課題については、実例をもとに施工上の留意点や改善点を学び、実技をとおして補修技術の習得をしました。

さらに今後の向上活動における、農業用施設の効率的な長寿命化対策の推進、施工水準確保に向けた技術の習得、地域環境の保全に向けた活動の充実を重点項目とし、地域の自立、活動の継続に視点を置いて、地域の特性を活かした主体的な取組を充実していくことに理解を深めました。

お知らせ！！

とちぎの農地・水保全向上対策フォーラムの開催について
「おれらがまもっぺ！ふるさとのきれいな田んぼや水！」

平成 26 年 2 月 6 日（木）宇都宮文化会館大ホール

生きものマップコンテストの表彰式と農地・水保全管理支払交付金の活動を一般県民へ理解促進を行うためフォーラムを開催します。
活動組織以外の方もお誘いいただきふるって参加ください。